

令和5年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業による研究

「BPSDの予防・軽減を目的とした認知症ケアモデルの普及促進に関する調査研究」

BPSDを予防・軽減するケアを全国普及するための研修の枠組みを検討

目的

①成果普及:これまでの本事業における成果の普及・促進のあり方について検討するとともに、②BPSD予防調査:BPSDの発生状況と「尊厳を保持し個別性を重視したその人らしい暮らしを支えるケア」を進めるための課題との関係を明らかにし、③BPSD軽減調査:令和4年度に実証したケア要件(「BPSD評価尺度とワークシートで本人のニーズやBPSDの背景要因を詳細に把握し、チームで情報共有して統一したケアを行いながら、PDCAサイクルでケアを見直すチームアプローチ」)の在宅サービス事業所における適用可能性について検討することを目的とした。

概要

主な事業内容

- ① 成果普及:検討委員会及び作業部会を設置し、これまでの本事業における研究成果をどのように全国普及するか検討を行った。
- ② BPSD予防調査:作業部会を設置し、調査の実施方法等の検討を行った。その結果を踏まえ、老健・特養・GHを対象に、実施しているケアや理念浸透のための取り組み・体制等を尋ねるアンケート調査による横断研究を行い、共分散構造分析により解析した。
- ③ BPSD軽減調査:在宅サービス事業所を対象に①BPSD評価、②全人的アセスメント、③PDCAサイクルで検証を繰り返すチームアプローチの3つの要素に準じたケアを行う前後比較試験を実施した。

主な事業結果・成果

① 成果普及

検討委員会の議論の結果、「BPSDの予防・軽減に資するケアの基本的考え方と展開方法について研修を活用しながら、実践の質を担保すること」が基本方針とされた。また、単に研修を実施するだけでなく、研修と実践を往復しながら、施設・事業所の実情に合わせたBPSDケアの体制づくりを行うことが重要とされ、「BPSDケア体制づくり研修」の枠組みを検討した。研修の内容及びテキストについては、令和4年度の実証検証の際に介入群に視聴を求めた日本版BPSDケアプログラム(東京都)動画の内容を参考にし、研修・実践に加え、BPSDケアの体制づくりを行うことを盛り込むものとした。研修の評価については、取り組みの結果を定期的にLIFEに登録する案がよい、体制づくり部分については、1事例に取り組みフォローアップ研修を受講する案がよいという意見が作業部会より得られた。

学習内容	標準時間
①BPSDのとらえ方	60分
②BPSDを理解する際に重要なアセスメント項目	
③BPSD評価尺度の理解と活用方法	
④BPSDに対するケア計画の基本的考え方	
⑤BPSDのケアにおけるPDCAサイクルの重要性	
⑥BPSDのケアにおけるチームアプローチの重要性	

 BPSDケアの
体制づくり

② BPSD予防調査

認知症の人に実施するケアは「安心・活動できる環境づくり」と「体調を確認」の2因子構造、理念浸透のための取り組み・体制は、「経営者による認知症の人中心のケアの発信」「管理者による認知症の人中心のケアの発信」「理念に則ったチームケア」の3因子構造となり、各因子間で有意な相関が認められた。また、有意差はなかったが、「安心・活動できる環境づくり」と「体調を確認」は、「Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia Questionnaire 13 items version(BPSD13Q)平均値」に対して、負の影響(BPSD低減)を示した。

③ BPSD軽減調査

Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia Questionnaire 25 items version(BPSD25Q)の重症度平均値の介入前後での差について、有意差が認められた。また、平均値の変化量は令和4年度の実証検証とほぼ同程度の減少量であり、効果量も $d=0.502$ と中等度の効果を示した。令和4年度に実証したケア要件に基づくケアが在宅サービスを利用する認知症の人のBPSD軽減にも活用できる可能性があることが示された。

成果物

報告書とテキストを作成し、認知症介護情報ネットワーク(DCnet)上にダウンロード可能な状態で公開した。